

所属	リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻 修士課程	修了年度	2018 年度
氏名	黒川 容輔	指導教員 (主査)	春原 則子

論文題目	失語症のある方の読解能力と新聞・雑誌・区報の可読性との関連
------	-------------------------------

本文概要	
<p><b>【はじめに】</b>  文章の読みやすさは可読性 (readability) と言われる。readability を公式に当てはめ readability score を算出する研究は日本でも行われている。しかし、海外においては失語症のある方の読みやすさに関する研究がなされているが、本邦では行われていない。そこで、日常生活上目にしやすい文章の readability score を算出し、失語症のある方の読解結果と比較することで、失語症のある方がどの程度の文章であれば読解可能か調査することを目的とした。</p> <p><b>【方法】</b>  新聞 3 誌・週刊誌 3 誌・都内 8 区の区報について、記事全体と記事のカテゴリーごとに jReadability を用いて readability score を算出した。また、失語症者 12 名に標準失語症検査、文の読解を含む言語検査、独自に作成した文章理解課題 (以下文章理解課題) を実施し、失語症の重症度、文の読解検査の正答数と文章理解課題の相関を検討した。</p> <p><b>【結果】</b>  区報・新聞・週刊誌の順で難易度が高かった。また、記事のカテゴリーによって難易度が異なった。文章理解課題の結果と、文読解検査の正答数の総計及び WAB 文章の理解と文字による命令の合計正答数において有意な相関が得られた。また、失語症者では文読解検査で高得点であったとしても、文章理解課題の中級程度の文章を理解できない者がいた。</p> <p><b>【考察】</b>  新聞・区報・新聞紙のカテゴリーごとの文章の難易度が明らかになったことにより、訓練で用いるテキストの選択に応用することが可能になったと考える。また、失語症検査の文読解課題で高い得点をとっても日常目にしやすい文章の理解が困難な可能性が示唆された。文章理解の評価には、WAB の「文章の理解」、「文字による命令」が適していることが明らかになった。今後、テキストの対象を広げ、他の readability 公式やクローズテストを用いて多くの対象者で調査する必要がある。</p> <p><b>【結語】</b>  新聞・雑誌・区報の文章は失語症者にとっては難度が高すぎることで、文章理解力の推定には WAB の下位検査「文の理解」「文字による命令」が有効であることが示された。</p>	